

# 心理教育・家族教室ネットワーク 第14回 研究集会

抄 録 集



つなげる  
つづける  
心理教育



会 期◆平成23年 2月24日(木)・25日(金)

会 場◆京王プラザホテル (東京都)

主 催◆日本心理教育・家族教室ネットワーク

大会長◆石郷岡 純 東京女子医科大学医学部精神医学教室

# 心理教育・家族教室ネットワーク 第14回研究集会

テーマ

## つなげる・つづける 心理教育

### 目次

---

大会長あいさつ	1
日 程 表	2
一般演題一覧	4
会場周辺地図	6
会場案内図	7
ご 案 内	8

### 2月24日(木) 抄 録

[ 大会長講演 ] 抗精神病薬はこころをどのように回復させるのか	12
[ シンポジウム1 ] 心理教育の基本と広がり	13
[ ワークショップ WS1 ] 統合失調症家族への心理教育	19
[ ワークショップ WS2 ] 感情調節困難のための心理教育 ～弁証法的行動療法を活用して～	20
[ ワークショップ WS3 ] 心理教育を広める・続ける ～ツールキットを活用した コンサルテーションの活用と進め方～	21
[ ワークショップ WS4 ] 子どもとそれを支える人たちへの心理教育	22
[ ワークショップ WS5 ] 家族による家族学習会	23
[ 一般演題 ]	24
[ ランチョンセミナー1 ]	34
[ ランチョンセミナー2 ]	35
[ ランチョンセミナー3 ]	36

## 2月25日(金) 抄 録

[ 教育講演 ] 抗精神病薬はこころをどのように回復させるのか .....	38
[ シンポジウム2 ] 心理教育のブレイクスルー ～心理教育を実践するうえで生じた壁を乗り越えよう～ .....	39
[ ワークショップ WS6 ] 地域で広げる心理教育 .....	43
[ ワークショップ WS7 ] うつからの復職支援と心理教育 .....	44
[ ワークショップ WS8 ] 病棟やデイケアで行う心理教育 ～医療機関ならではのバリエーションや課題～ .....	45
[ ワークショップ WS9 ] 本人支援 .....	46
[ ワークショップ WS10 ] 家族の中の SST .....	47
[ 一般演題 ] .....	48
[ ランチョンセミナー4 ] .....	58
[ ランチョンセミナー5 ] .....	59
[ ランチョンセミナー6 ] .....	60
協賛・後援団体 .....	61
第14回研究集会(東京大会) 実行委員会 .....	62

# ごあいさつ

この度、心理教育・家族教室ネットワーク第14回研究集会（東京大会）を平成23年2月24日（木）25日（金）の2日間の日程で開催させていただくことになりました。首都圏では市川大会以来3年ぶりとしさしぶりの開催となりました。

心理教育・家族教室ネットワークは10余年にわたって研究集会を重ねるなかで、多くの人が出会い、経験を共有することで、心理教育・家族教室が発展していく礎となってきました。今回、その大きな流れを絶やすことなく引き継ぐことも私たちの使命だと考え、大会のメインテーマを「つなげる・つづける心理教育」としました。そして、そこから心理教育さらに精神医療が充実・発展していくためには、生物学的治療と心理社会的治療、病院と地域、多職種間、専門家と患者と家族、そして心理教育のベテランから新人までさまざまな次元でつながりあうこと、そしてそのつながりを保ち続けることが大切だと考えました。

教育講演は独立行政法人国立精神・神経医療研究センターの樋口輝彦さんに「わが国の自殺・うつ病対策」の題でお話しいたします。大会長講演は石郷岡純が「抗精神病薬はこころをどのように回復させるのか」の題でお話しいたします。シンポジウムでは「心理教育の基本と広がり」「心理教育のブレイクスルー」というテーマをとりあげました。どんどん広がっている心理教育を見つめ直し、心理教育の初心者からベテランまでが共有すべき知識、行動、精神を確認し合い、そして、そこからのさらなる発展のために心理教育が乗り越えなければならないことは何かについて考えてみたいと思います。そのほかにも、〈つなげる・つづける〉を基本テーマに、魅力あふれる講師の皆さんにバラエティに富んだ10のワークショップを企画していただきました。

この会での出会いや交流の中で一人ひとりがエンパワメントされることを願っております。

心理教育・家族教室ネットワーク第14回研究集会  
大会長 **石郷岡 純**  
(東京女子医科大学医学部精神医学教室)  
事務局長 **大下 隆司**  
(東京女子医科大学医学部精神医学教室)

第1日目 2月24日(困) 京王プラザホテル

第1会場 5階 コンコードA、B	第2会場 42階 富士	第3会場 42階 高尾	第4会場 42階 武蔵	第5会場 47階 あおぞら	第6会場 42階 御岳
---------------------	----------------	----------------	----------------	------------------	----------------

9:45～ 開場および受付開始					
10:30～10:40 開会式 10:40～12:40 シンポジウム1 心理教育の基本と広がり オーガナイザー： 池淵 恵美 (帝京大学) 大島 巖 (日本社会事業大学)	司会：後藤 雅博 (新潟大学) 石郷岡 純 (東京女子医科大学)		1.心理教育の基本と展開 2.心理教育の効果-何を期待することができるか- 3.さまざまな疾患や社会的困難への広がり 4.さまざまな主体や実施場所の広がり 5.さまざまな治療技術との連携・統合 大島 巖 (日本社会事業大学) 下寺 信次 (高知大学) 前田 正治 (久留米大学) 後藤 雅博 (新潟大学) 遊佐 安一郎 (心理技術研究所/長谷川メンタルヘルス研究所)	15:10～17:40 ワークショップ1 統合失調症家族への心理教育 オーガナイザー： 馬場 安希 (国立国際医療センター-国府台病院) 西村 悟、渡辺 麻美 (馬場 安希、小川 麻衣、逆井 裕美、今井 佐知子、木幡 明美、浅川 理恵、佐藤 美央、安田 ティ	15:10～17:40 ワークショップ2 感情調節困難のための心理教育 オーガナイザー： 遊佐 安一郎 (心理技術研究所/長谷川メンタルヘルス研究所)
12:50～13:50 ランチセミナー1 当事者の不満・家族の不安～治療関係者への期待と役割～ 座長：安西 信雄 (国立精神・神経医療研究センター-神院) 講師：西園 昌久 (心理社会的精神医学研究所) 共催：大塚製薬株式会社	12:50～13:50 ランチセミナー2 うつ病回復と職場復帰の分離 座長：石郷岡 純 (東京女子医科大学) 講師：吉村 玲児 (産業医科大学) 共催：グラクソ・スミダライオン株式会社	12:50～13:50 ランチセミナー3 職場復帰への支援について 座長：尾崎 紀夫 (名古屋大学) 講師：秋山 剛 (NTT東日本医療) 共催：塩野義製薬株式会社 日本イーライリリー株式会社	12:50～13:50 運営委員会 [ 42階 津久井 ]	15:10～17:40 ワークショップ3 心理教育を広める・続ける オーガナイザー： 大島 巖 (日本社会事業大学) 大島 信幸 (日本社会事業大学) 演者：菅原 明美、大澤 孝、人見 加津子、賀川 信幸 コメンテーター： 後藤 雅博 (新潟大学)	15:10～17:40 ワークショップ4 子どもとそれを支える人たちへの心理教育 オーガナイザー： 大下 隆司 (東京女子医科大学) 演者：下寺 信次、野中 猛、藤井 和子、伊東 ゆたか
14:00～15:00 大会長講演 抗精神病薬は、どこをどのように回復させるのか 座長：後藤 雅博 (新潟大学) 演者：石郷岡 純 (東京女子医科大学)	15:10～17:40 ワークショップ5 家族による家族学習会 オーガナイザー： 福井 里江 (東京学芸大学) 演者：岡田 久実子、飯塚 壽美、佐藤 美樹子	18:00～ 懇親会 (会場：5階 コンコードC)			

第2日目 2月25日(金) 京王プラザホテル

第1会場 5階 コンコードA、B	第2会場 42階 富士	第3会場 42階 高尾	第4会場 42階 武蔵	第5会場 47階 あおぞら	第6会場 42階 御岳
---------------------	----------------	----------------	----------------	------------------	----------------

8:00	8:15～ 開場および受付開始				
9:00	9:00～11:30 ワークショップ8 病棟やデイケアで行う 心理教育 ～医療機関ならではの バリエーションや課題～ オーガナイザー： 内野 俊郎 (久留米大学) 演者：松田 光信、渡邊 真里子 内野 俊郎、桑田 武志	9:00～11:30 ワークショップ10 家族の中のSST オーガナイザー： 前田 ケイ (ルーテル学院大学) 小野 賢一 (東京女子医科大学) 演者： 前田 ケイ、小野 賢一 狩野 明子、山田 薫 倉方 真紀子、山谷 優子	9:00～11:30 ワークショップ9 本人支援 オーガナイザー： 坂本 明子 (久留米大学) 演者：坂本 明子 藤田 英美 高橋 美久 田川 幸子	9:00～11:30 ワークショップ7 うつからの復職支援と 心理教育 オーガナイザー： 内田 江里 (総合メンタルヘルズ研究所) 遊佐 安一郎 (総合メンタルヘルズ研究所) 演者： 内田 江里、後藤 雅博 遊佐 安一郎	9:00 ～11:30 一般演題 11～20 詳細は 次ページを ご覧下さい
10:00					
11:00					
12:00	11:50～12:50 ランチョンセミナー4 若年の家族への支援を考える ～子どもや兄弟姉妹をどう支えるか～ 座長：野村 忠良 (東京都精神医学総合研究所) 講師：西田 淳志 (東京製薬株式会社) 野村 義子 (東京製薬株式会社) 共催：大日本住友製薬株式会社、吉富薬品株式会社	11:50～12:50 ランチョンセミナー5 変り行く思春期の心理 と病理 -いかに理解し、 いかにアプローチすべきか- 座長：稲田 俊也 (脳神経研究所附属調和病院) 講師：鍋田 恭孝 (青山学院大学) 共催：明治製菓株式会社	11:50～12:50 ランチョンセミナー6 特別性注射剤リスペクターコ ンスタの可能性と、るえか式 心理教育&コンスタクラブ 座長：根本 隆洋 (東京大学医学部センター森病院) 講師：肥田 裕久 (ヒテクリニック) 共催：ヤンセンファーマ株式会社		
13:00	13:00～13:50 教育講演 わが国の自殺・うつ病対策 座長：石郷岡 純 (東京女子医科大学) 演者：樋口 輝彦 (国立精神・神経医療研究センター)	13:00～13:50 シンポジウム2 心理教育のブレイクスルー オーガナイザー： 伊藤 順一郎 (国立精神・神経医療研究センター) 稲田 健 (東京女子医科大学)			
14:00					
15:00					
16:00	15:50～16:15 クロージングセッション・閉会式	15:50～16:15 指定討論者：後藤 雅博 (新潟大学)、池淵 恵美 (帝京大学) 司会：後藤 雅博 (新潟大学) 石郷岡 純 (東京女子医科大学)			

～16:30 完全退館

# 一般演題一覧

2月24日(木)

第6会場

座 長	No.	タイトル	演 者
15:10～ 山口 一 桜美林大学	1	SCOP (Stress Coping Program) ～早期精神病に対する心理教育／CBT プログラム	市橋 香代 ささかわ通り 心・身クリニック デイケア早期リハビリコース (社会医療法人居仁会)
	2	るえか式心理教育 ～デイケア初回面談に導入した取り組み～	櫻田 睦子 医) 宙委会ひだクリニック
15:40～ 渡邊 真里子 福間病院	3	東京女子医科大学版心理教育プログラムの精神科 医師教育への活用 ～後期研修医へのアンケート調査から～	大橋 優子 東京女子医科大学医学部 精神医学教室
	4	入院中から外来へ繋げるうつ病集団心理教育 ～再入院率の調査とその効果～	前川 理紗 総合心療センターひなが (社会医療法人居仁会)
16:10～ 高橋 結花 東京女子医科大学	5	初石病院における持効性注射剤の処方患者に 対する心理教育の取り組み	佐藤 俊之 初石病院
	6	精神科急性期治療病棟からの早期心理教育プログラムの報告 ～地域生活を自分らしく送るために～	小林 悦子 東加古川病院
16:40～ 三輪 健一 湖南病院	7	精神障害者の家族介護者に対する個別心理教育的 支援	佐藤 大介 千葉県立保健医療大学 リハビリテーション学科
	8	家族による家族学習会 ～4年目の活動報告～	中村 由嘉子 名古屋大学大学院医学系研究科 精神医学分野
17:10～ 小林 清香 東京女子医科大学	9	心理教育グループの組織創り	松永 智香 社会医療法人近森会近森病院 第二分院
	10	デイケア(クリニック併設)での家族会の取り組み ～スタッフの勢いでスタートし、家族にもらう力で 継続中～	山本 泰雄 デイケアクリニック ほっとステーション

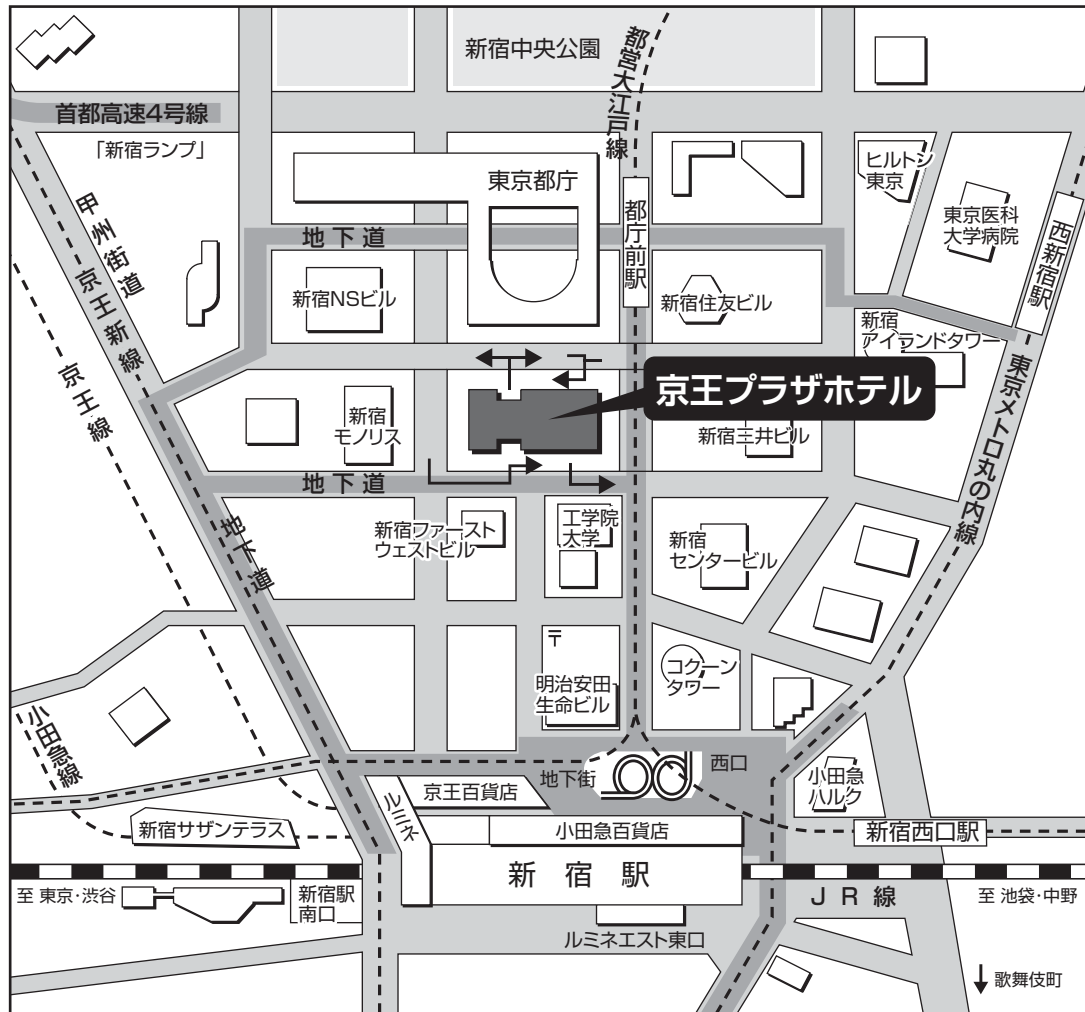
2月25日(金)

第6会場

座長	No.	タイトル	演者
9:00～  瀬戸屋 希 聖路加看護大学精神看護学	11	家族心理教育プログラムの回数変更の試み	馬場 安希 国立国際医療研究センター国府台病院
	12	家族と共に学ぶ統合失調症患者の地域生活について ～家族教室で社会復帰関連施設の見学を実施して～	関川 望美 社団医療法人智徳会岩手晴和病院
9:30～  吉田 光爾 独立行政法人国立精神・ 神経医療研究センター 精神保健研究所 社会復帰相談部	13	統合失調症への「心理教育と SST」プログラムの実践報告	古賀 香代子 独立行政法人国立病院機構菊池病院 臨床研究部
	14	統合失調症への「心理教育と SST」プログラムの評価について	三善 富士雄 独立行政法人国立病院機構菊池病院 臨床研究部
10:00～  加瀬 昭彦 横浜舞岡病院	15	急性期から作業療法介が開始され、外来移行後に心理教育を基に介入した症例	大川 綾子 東京女子医科大学病院 リハビリテーション部 精神科作業療法
	16	地域精神保健活動における SST 実践の可能性について	藤原 隆之 特定非営利活動法人 いわてソーシャルサポートセンター
	17	少年院における発達に課題がある少年に対する認知的アプローチ	守谷 泰弘 愛知少年院
10:45～  上原 徹 群馬大学健康支援総合センター	18	「自分自身で、共に」という当事者研究が開く世界 —知的創造モデルの観点から—	いとうたけひこ 和光大学現代人間学部心理教育学科
	19	浦河べてるの家の当事者研究 —ナラティブとコミュニティの観点から—	小平 朋江 聖隷クリストファー大学看護学部 看護学科
	20	精神障害を持つ人と共に地域で心地よく生活するための、住民自身のニーズ —東京都民を対象とした調査から—	千葉 理恵 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻精神看護学分野



## 会場周辺地図



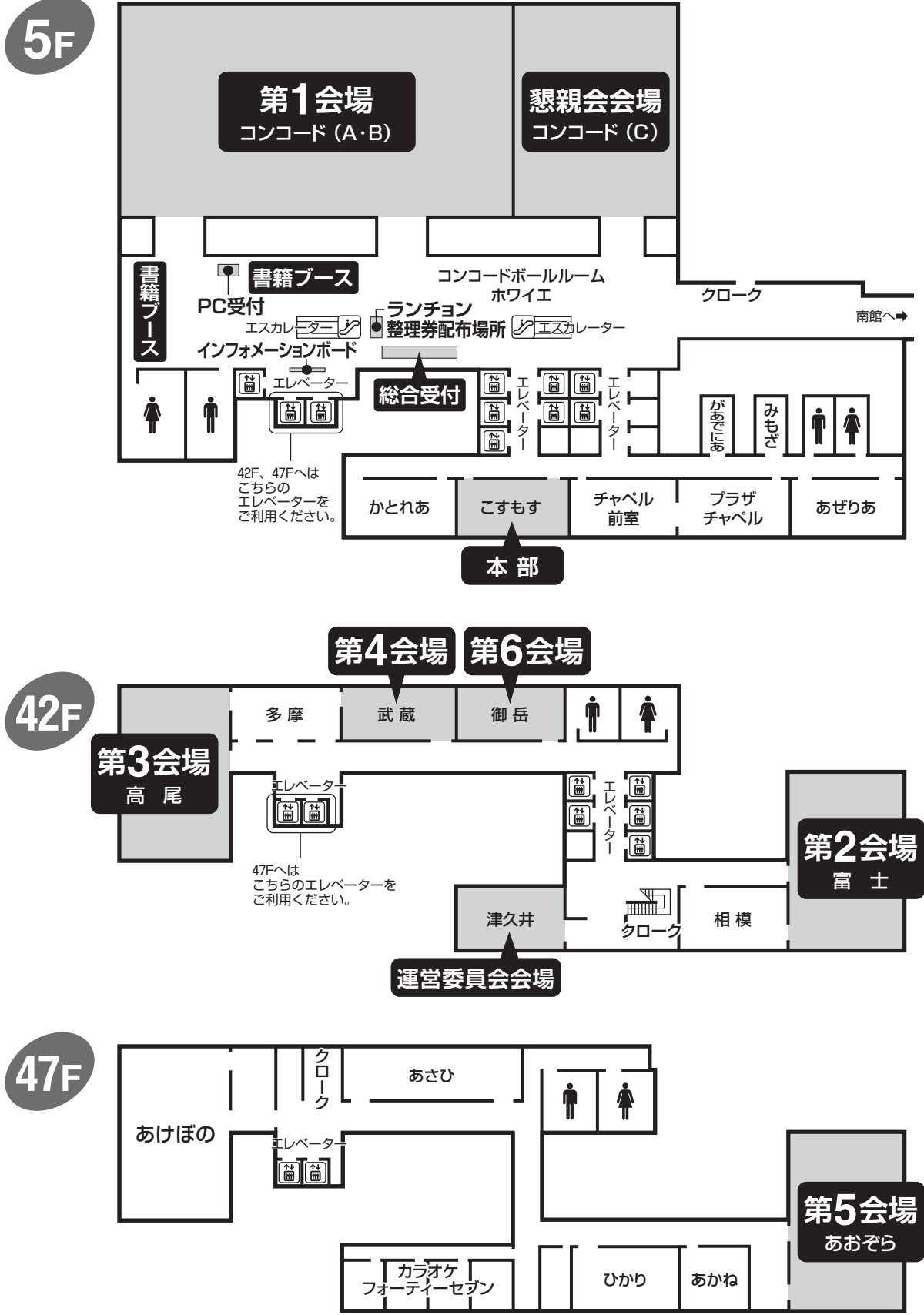
JR 新宿駅西口下車 徒歩5分

京王線・小田急線・地下鉄(東京メトロ丸の内線・都営新宿線)

新宿駅下車 徒歩5分

都営大江戸線 都庁前駅 B1 出口すぐ

# 会場案内図



# ご 案 内

## ■ 参加者の方へ

### 1) 参加受付

平成23年2月24日(木) 9:45～ 受付開始

2月25日(金) 8:15～ 受付開始

5階 総合受付にて承ります。

〈参加費(当日、抄録集代含む)〉

会員 7,000円 非会員 8,000円 当事者 1,000円 学生/家族 2,000円

- 参加証は所属・氏名をご記入の上、会場内では必ず見えるように付けてください。
- 学生の方は当日、受付にて学生証をご提示下さい。
- 追加の抄録集をご希望の方には、当日受付にて1部1000円で販売いたします。

### 2) 懇親会

- 第1日目(24日)のプログラム終了後、18:00より、5階コンコードCにて懇親会を行います。
- お申し込みは総合受付にて行っております。会費は5,000円です。
- 当日の参加も可能ですので、総合受付までお問い合わせください。

### 3) ランチョンセミナーについて

- ランチョンセミナーへ参加ご希望の方は、整理券をお受け取り下さい。
- 整理券は、両日とも参加受付開始時より、総合受付横にて配布いたします。
- 整理券の枚数には限りがあります。お早めにお申し込みください。

### 4) 手荷物のお預かりについて

- 手荷物は、ホテル5階のクローク、および3階のメインクロークにてお預かりいたします。貴重品はお預かりできませんのでご了承ください。

### 5) 会場のご利用について

- 会場内では、携帯電話等の音の出る端末は電源をお切りいただくか、マナーモードに設定してください。
- 会場内は禁煙です。ホテルの外に喫煙所があります。
- ホテル内に自動販売機はありません。2階にコンビニエンスストアがあります。
- 会場内でのご案内はスタッフ章をつけたスタッフが対応いたします。お困りの際にはお声がけください。
- けがをされたり、ご気分のすぐれない方は会場内のスタッフまでお申し出ください。

#### 6) 伝言版のご活用について

- 会場内では、放送での呼び出しは行いません。参加者への連絡事項等は総合受付横に設置された伝言板をご活用ください。

#### 7) 録音・録画・カメラのご使用について

- 事務局の許可なく、セッションを録音すること、演者、参加者の写真撮影を行うことは固く禁止しております。

#### 8) 書籍等の販売について

- 5階 コンコード AB 前のスペースにて書籍の展示・販売を行います。
- 最終日の販売時間は15：30までとさせていただきます。

#### 9) 心理教育・家族教室ネットワークへのご入会

- 入会受付を5階にご用意しております。この機会にご入会いただければ幸いです。

### ■ 一般演題演者の方へ

- 発表時間は1演題15分（発表10分、質疑応答5分）です。時間厳守にご協力下さい。
- **2月24日ご発表の方は、2月24日13時まで**  
**2月25日ご発表の方は、2月24日17時半まで**  
にPC受付にスライドをご提出ください。
- スライドの受付をおすませの上、ご発表の10分前までに、発表会場の次演者席にご着席下さい。

### ■ 座長の方へ

- 座長の方は、ご担当セッションの開始10分前までに発表会場にお越しください。
- 担当セッション中の司会進行、時間管理等は座長に一任いたします。

### ■ 運営委員の方へ

- 2月24日（木） 12：50～13：50 42階 津久井 にて運営委員会を行います。

2月24日<sup>木</sup>

抄 録

## 抗精神病薬はこころをどのように回復させるのか

石郷岡 純

東京女子医科大学医学部精神医学教室

座長：後藤 雅博(新潟大学)

統合失調症から回復させるために多くの治療法が開発されてきており、薬物療法も、心理教育もそのひとつである。一般に、治療法の原理として、①病因を排除する(感染症における抗生剤の使用)、②病理部分を排除する(悪性腫瘍のある臓器を切除する)、③回復力を高める(休息を取って風邪を治す)などがあるが、薬物療法の原理がどのようなものなのかを知り、医療者間で理解を共有しておくことは、チームが行う医療を有効なものとするためには不可欠なことである。そこで、本講演では、統合失調症治療にかかわる医療者にとって押さえておくべき、抗精神病薬療法の治療原理について述べることとする。

抗精神病薬の最終目標はレジリエンスの強化にあると考えられており、その結果精神病状態から回復していく過程を援助・強化する治療法と言える。そこで、薬物療法の原理を理解するためには、統合失調症におけるレジリエンス(あるいはその強化)の生物学的実態とはどのようなものを把握する必要がある。統合失調の脳機能研究から得られた今日的理解によると、この疾患におけるレジリエンスの低下をもたらしている主要な問題点は、情動・社会情報プロセッシング(一般的に社会認知機能あるいは情動記憶機能と言われるものに相当)に関わる脳機能の失調である可能性が高くなってきた。具体的な脳の局在としては、腹側外側扁桃核と前頭前野を軸とし、腹側被蓋野、側座核を含んだ神経回路が主要な場である。この回路においてはドパミン神経が主要な役割を果たしており、抗精神病薬はそのドパミン D2 受容体遮断作用を通じて、この回路の失調を改善し、その結果情動情報処理機能や社会認知機能の改善を図ることにより、レジリエンスの強化機能を発揮していると考えられる。

抗精神病薬に対するこのような理解は、他の治療法を改良・発展させていくためにも多大な示唆を与えるものと思われる。

## 心理教育の基本と広がり

オーガナイザー：池淵 恵美(帝京大学)

大島 巖(日本社会事業大学)

### 趣 旨

心理教育は統合失調症の家族を対象に開発され、その再発防止効果から広く知られるようになっており、現在では疾患を超えて、さまざまなプログラムや設定で行われるようになってきました。このシンポジウムでははじめに、家族及び当事者を対象とした心理教育の基本、すなわち理念と技術を提示することで心理教育のエッセンスとは何かを確認した後、どのような広がりを見せているかについて概観したいと思います。2日間の大会会期の冒頭に行われるシンポジウムであり、その後のさまざまなワークショップやシンポジウムに通底する心理教育の本質について、参加者の合意づくりをするとともに、2日間の会期中でこれからの発展を皆で考えていく上での共通認識としたいと考えています。演者には心理教育についてのベテランをそろえて、初心者入門編となるように、また経験者にとっては再確認の場となるように工夫していますので、ぜひ大勢の参加を期待しています。

### S1-1 心理教育の基本と展開 ー心理教育の理念と技術のエッセンスと標準化の問題ー

大島 巖(日本社会事業大学)

### S1-2 心理教育の効果 ー何を期待することができるかー

下寺 信次(高知大学)

### S1-3 さまざまな疾患や社会的困難への広がり

前田 正治(久留米大学)

### S1-4 さまざまな主体や実施場所の広がり

後藤 雅博(新潟大学)

### S1-5 さまざまな治療技術との連携・統合

遊佐 安一郎(心理技術研究所/長谷川メンタルヘルス研究所)

## 心理教育の基本と展開 －心理教育の理念と技術のエッセンスと標準化の課題－

大島 巖

日本社会事業大学

近年、日本でも心理教育の意義と有効性が精神保健福祉関係者の間で広く受け入れられるようになりました。それを踏まえて効果的な心理教育プログラムを、ニーズをもつ多くの障害をもつ方本人やご家族に対して幅広く適用できるよう、心理教育・家族教室ネットワークでは標準版家族心理教育研修会を開催し、研修会を実施するインストラクターの養成に取り組んでいます。また心理教育の実施・普及のために、効果的モデルのツールキットを導入し、その体系的な実施をサポートするコンサルタントの養成が検討されつつあります。心理教育の理念と技術のエッセンスは、これら心理教育の標準化のために整理されようとしています。効果的な取り組みを、体系的に実施・普及し、展開するためには、ネットワークとして、この「エッセンス」を整理する必要があるからです。

心理教育の意義や理念の位置づけには次の二つの系譜があります。すなわち、①脱施設化が進行する中で、回転ドア現象を防止し疲弊した家族を支援するために家族心理教育が科学的根拠を蓄積して来たこと、②当事者・家族主体の精神保健福祉サービスを実現する上で心理教育が支援の要の位置にあることが認識されるようになったこと、です。

本報告では、この二つの系譜を踏まえながら、より有効で有益な心理教育の理念と技術のエッセンスがどのようにまとめられてきたのか、効果の上がる心理教育の実施・普及のために標準化の課題は何か、に焦点を当てて報告したいと考えます。



## 心理教育の効果 －何を期待することができるか－

下寺 信次

高知大学医学部 神経精神科学教室

---

心理教育には患者さんの再発防止や家族の心理的な負担の軽減などの様々な効果が期待できる。精神疾患を有する患者さんの家族は病気から起こる様々な変化に気づきにくくひどく戸惑うことが多い。このような混乱した状態は家族の感情表出を高めることになり、家族の心理的な負担のみではなく患者さんの病状の悪化にも大きく影響する。心理教育は患者さんと家族がともに治療に向かって前向きに進んでいく際の大きな糧となるものである。きちんとした知識と対処方法により医療者との連携も効率的に行えるようになる。また、心理教育は再発防止による医療コストの削減にも大いに役立っている。

2月25日金

抄 録

## わが国の自殺・うつ病対策

樋口 輝彦

国立精神・神経医療研究センター理事長・総長

座長：石郷岡 純（東京女子医科大学）

わが国の自殺者数は平成10年以後、12年連続3万人を超える状態が続いており、国をあげて自殺対策に力が注がれている。自殺の原因は複雑であり、今日の経済状況とも密接に絡む部分があるので、単純化することは避けるべきであるが、警察庁の「自殺の原因・動機別の分類」によればその第1位は「健康問題」であり、中でも精神疾患がその背景として重要であることは、よく知られている。中でも気分障害や薬物・アルコール依存の占める割合が高く、自殺の防止を考える上で、これら精神疾患の早期発見・早期治療は重点対策のひとつである。うつ病患者の大半が初めて受診する先はかかりつけ医であり、うつ病の診断が、その時点で行われる割合は20～30%と言われる。うつ病を早期に発見するためには、かかりつけ医のうつ病診断能力の向上が鍵になる。その観点から、医師会、関連学会は一般医へのうつ病啓発活動を展開してきた。一方、一般市民への「うつ・自殺」啓発も重要である。「眠れますか？」という単純なメッセージが有効とする取り組みなど、様々なスクリーニング法が研究されており、医療関係者と一般市民双方の努力がうつ病の早期発見・早期治療、自殺防止へと結実することが期待される。

## 心理教育のブレイクスルー ～心理教育を实践するうえで生じた壁を乗り越えよう～

オーガナイザー：伊藤 順一郎（独立行政法人国立精神・神経医療研究センター）  
稲田 健（東京女子医科大学）

### 趣 旨

心理教育は現在の精神科治療において、薬物療法などの生物学的治療と心理社会的治療の両者をつなぎ、多職種の医療者と当事者、家族をつなぎ、医療機関と地域をつなぎながら発展しています。大会冒頭のシンポジウム1では、心理教育の基本的なエッセンスと今後の可能性について確認し、2日間のワークショップでは、心理教育のたくさんの手法が紹介されます。これらを踏まえたうえで、シンポジウム2では心理教育を行う際の問題点、実践している現場で感じられる壁を取り上げ、議論したいと思います。各演者からは、継続可能なモデルとその定着上の工夫や、スタッフの教育に関する課題と実践、適切な情報伝達ということについて精神科領域が抱える問題点などについて話題提供します。心理教育をつなぎ、つづけていく際に出会う壁を越えていくための方法を模索し、心理教育全体、さらには精神科医療全体、あるいは医療全体の発展を考えた議論になることを期待したいと考えています。

### S2-1 臨床上の成功事例

贅川 信幸（日本社会事業大学）

### S2-2 研究、教育の観点から；Bio-psycho-social の視点の確保をめぐる話題

稲田 健（東京女子医科大学）

### S2-3 近接領域での活動からの発言

恒松 由記子（こども教育宝仙大学）

指定討論者：後藤 雅博（新潟大学）

池淵 恵美（帝京大学）

心理教育・家族教室ネットワーク第14回研究集会(東京大会)

協賛・後援団体

協 賛

「製薬株式会社  
大日本住友製薬株式会社  
グラクソ・スミスクライン株式会社  
明治製菓株式会社  
日本イーライリリー株式会社  
ヤンセンファーマ株式会社  
ファイザー株式会社  
吉富薬品株式会社  
アステラス製薬株式会社  
塩野義製薬株式会社  
ノバルティスファーマ株式会社  
エーザイ株式会社  
株式会社中島映像教材出版

(順不同)

後 援

東京都  
(社)日本精神科病院協会  
(社)東京精神科病院協会  
(社)日本精神神経科診療所協会  
東京精神神経科診療所協会  
(社)日本精神科看護技術協会  
(社)日本精神保健福祉士協会  
(社)日本作業療法士協会  
(社)日本看護協会  
(社)日本栄養士会  
(社)日本臨床心理士会

(順不同)

# 第14回研究集会(東京大会) 実行委員会

## 大会長

石郷岡 純 東京女子医科大学

## 事務局長

大下 隆司 東京女子医科大学

## 実行委員

池淵 恵美 帝京大学

石澤 和絵 長谷川病院

稲田 健 東京女子医科大学

井上 敦子 東京女子医科大学

大島 巖 日本社会事業大学

小野 賢一 東京女子医科大学

門山 律子 東京女子医科大学東医療センター

小林 清香 東京女子医科大学

瀬戸屋 希 聖路加看護大学

高橋 はづき 東京女子医科大学

高橋 結花 東京女子医科大学

福井 里江 東京学芸大学

遊佐 安一郎 心理技術研究所／長谷川メンタルヘルス研究所

(五十音順)

## 運営事務局

株式会社ケイ・コンベンション



表紙 画：篠原知子さん

春を告げる<sup>こぶし</sup>辛夷の花とふきのとうの芽吹きが、時間のつながりと新しい始まりを表しています。本大会の〈つなげる・つづける〉というメインテーマをイメージして描いていただきました。  
スタッフ一同、心より感謝申し上げます。

## 心理教育・家族教室ネットワーク 第14回研究集会 抄録集

大会長：石郷岡 純

事務局：東京女子医科大学医学部 精神医学教室

事務局長：大下 隆司

〒162-8666 東京都新宿区河田町8番1号

TEL：03-3353-8111

出版：<sup>(株)セカンド</sup>Secand 学術集会専門出版社 株式会社セカンド  
学会サポート <http://www.secand.jp/>

〒862-0950 熊本市水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025